

不登校への対応に当たって

1. 将来の社会的自立に向けた支援の視点

不登校の解決の目標は、子どもたちの将来的な「社会的自立」です。
また、不登校は「心の問題」のみならず「進路の問題」であるとの認識に立ち、各学校は、進路形成に資する学習支援や情報提供等を積極的に行うことが重要です。

5. 保護者の役割と家庭への支援

保護者がその役割を果たすことができるよう、
時機を失することなく子どもや家庭へ適切な働きかけを行うなど、
学校と家庭、関係機関の連携は不可欠です。
その際、保護者への働きかけが保護者を追い詰めること等がないよう、
保護者との共通する課題意識の下で対応することが大切です。
保護者の支援のために気軽に相談できる窓口や保護者同士のネットワークづくりへの支援、
さらには、保護者と学校関係者等が相互に意見交換する姿勢も大切です。

2. 連携ネットワークによる支援

多様な問題を抱えた子どもに態様に応じたきめ細かな支援が必要です。
児童生徒の状態や必要としている支援を
適切に見極め（「アセスメント」を行う）、
適切な支援と多様な学習の場を提供する
（社会的自立にむけての進路の選択肢を広げる支援）ために、
学校、地域、家庭で密接な連携をとることが重要です。
また、学校や教育行政機関と民間施設やNPO等との
積極的な連携・協力が重要です。

3. 将来の社会的自立のための学校教育の意義・役割

義務教育段階の学校は、社会性の育成や生涯を通して学び続けるための
学力を育てる学習支援の場として、重要な意義・役割があります。
まず、学校教育の充実のための取組と学校生活に起因する
問題の解消に向け、教職員一人一人の最大限の努力が必要です。

4. 働きかけることや関わりを持つことの重要性

主体的な 社会的自立や学校復帰に向けて、周囲の者が状況をよく見極め、
適切な働きかけをすることが重要です。
児童生徒の状況を理解しようとすることもなく、
必要として いる支援を行わずただ待つだけでは状況の改善にはなりません。

5つの視点